



「防府歴史・文化財読本～ほうふ学入門～」から

校長 田中 俊光

今回の校長室だよりでは、防府市教育委員会が発行した「防府歴史・文化財読本～ほうふ学入門～」という本から、「観光・景観」のページで紹介されている「牟礼周辺」と、阿弥陀寺を建て春日大社を再建した重源上人を紹介します。

〈牟礼周辺〉

防府市で一番高い山、大平山（標高631.3m）がある牟礼周辺には、のどかな風景が広がります。大平山山頂公園には「展望広場」「芝生広場」「遊びの広場」「多目的広場」の4つの広場があります。展望広場では防府平野や瀬戸内海に浮かぶ島々を眺めることができ、よく晴れた日には四国や九州も見えます。斜面を利用したアスレチック系の遊具やコンビネーション遊具などが設置されており、家族でゆったりとした時間が過ごせます。

文治3年(1187)重源上人(上人とは、仏教における高僧への敬称)が後白河法皇の現世安穩(この世を無事に暮らすこと)を祈って建てた名刹(名高い寺、由緒ある寺)・東大寺別院阿弥陀寺には、国宝の鉄宝塔や貴重な仏像や古文書を多く所蔵しています。西日本随一のあじさい寺としても有名な境内には、4,000株のあじさいが植えられ、毎月6月にはあじさい祭が開催されます。一年を通して情緒豊かな風情が味わえる名所です。

春日神社は周防国司として赴任した藤原氏が、文治2年(1886)に奈良の春日神社の分霊を祀ったといわれ、重源上人によって再建されました。大寒の日に、無病息災を祈願して冷水に浸かって心身を清める大寒みそぎには、毎年多くの男女が参加します。10月には鬼面を被った少年たちが参拝する例大祭・鬼まつりが行われ、前夜には300年以上の歴史のある田楽踊りを七人の少年たちが舞います。付近の桜並木は春には見事なピンクのトンネルを作ります。

〈重源上人(1121～1206)〉

重源は、保安2年(1121)に京都で生まれ、13歳で仏門に入り修行に励みました。仁安2年(1167)には宋に入国し、一層知識を深めました。

治承4年(1180)12月28日、平重衡によって東大寺が焼失した時は、重源はすでに61歳の高齢でしたが、難事業であると思われたその再建に自ら志願しました。東大寺の再建事業にあたる大勧進には、土木や建築の技術的知識や経験、また技術者集団にも詳しいことが求められますが、重源は諸国で修行するかたわら様々な土木事業を行い、優秀な技術者にも詳しくだったので、東大寺再建の指揮をとるのにふさわしい人物だったのです。

焼失から6年後の文治元年(1185)に大仏の開眼供養を終えた重源は、引き続き大仏殿の再建に取り組みました。東大寺再建の材を出す造営料国(寺社の造営・修理の負担を割り当てられた国のこと)となった周防国に入り、用材の切り出しにあたりました。重源の活動を快く思わない地頭などの様々な妨害に苦しめられ、一時は大勧進を辞める事も考えながらも、重源は困難と思われた事業をやりとげ、建久6年(1195)、大仏殿が竣工し大供養を行いました。その後、建永元年(1206)に86歳で入寂(僧が死ぬこと)するまで、周防国の国務を管理しました。

(「防府歴史・文化財読本～ほうふ学入門～」防府市教育委員会)

〈お知らせ〉

10月1日(火)20:54～21:53「開運!なんでも鑑定団」(テレビ東京 系列全国ネット)で、東大寺別院阿弥陀寺の国宝・鉄宝塔内の「水晶五輪塔」が紹介されます。